



秋は短し 岩手
旅せよ
WANDER IWATE

2025年5月28日
いわて観光キャンペーン推進協議会
東日本旅客鉄道株式会社盛岡支社

重点共創エリア「岩手」をスタートします！ ～WANDER IWATE～

岩手県が2025年9月から11月までの3ヶ月間、JR 東日本の「重点共創エリア」に指定されたことを受け、いわて観光キャンペーン推進協議会とJR東日本グループが一体となって、インバウンドを含めた国内外からの誘客拡大や、岩手県が誇る伝統文化や地産品などの魅力的な地域アセットを活用した地域資源の磨き上げ・掘り起こしに取り組み、交流人口・関係人口の拡大を目指した積極的なプロモーションなどを実施していきます。

1 重点共創エリア期間

2025年9月1日(月)～11月30日(日)

2 インバウンド誘客拡大の取組み



(1)「台湾国際観光博覧会 TTE2025」(台北市(台湾))への出展

上半期台湾最大の旅行博覧会「台北国際観光博覧会 TTE2025」(開催期間:2025年5月23日(金)～26日(月))に岩手県と JR 盛岡支社が初めて共同出展し、岩手まるごとおもてなし隊・マジカル河童ちゃんによる PR など、秋の誘客拡大を目的に岩手県のプロモーションを実施しました。



(2)「みちのく潮風トレイル」のPR

環境省が設定した青森県八戸市から福島県相馬市までの太平洋沿岸をつなぐ約 1,025 キロのロングトレイルです。このうち 49%にあたる約 499 キロが岩手県内のコースです。

多くの欧米メディアにも取り上げられるなど、インバウンドからも人気のある「みちのく潮風トレイル」について、JR 東日本の駅アセットや各種宣伝チャネルなどで重点的なプロモーションを実施します。



3 岩手県内の秋まつり



(1)「岩手の秋まつり」のPR

盛岡さんさ踊りをはじめ、東北は夏祭りが有名ですが、岩手県は秋に各地で様々な「秋まつり」が開催されます。豪華絢爛な山車運行など、県内各地の秋を彩るまつりを、JR 東日本グループの様々なアセットを通じてプロモーションを行います。

○岩手の秋まつりポスター



掲出期間:7月1日(火)~9月22日(月)

掲出場所:JR 東日本の主要駅、岩手県内の観光施設等

掲載内容:盛岡秋まつり(盛岡市)、みやこ秋まつり(宮古市)、花巻まつり(花巻市)

日本のふるさと遠野まつり(遠野市)、久慈秋まつり(久慈市)、山田祭り(山田町)

(2)重点共創エリア期間中の主な秋まつりに合わせた団体専用臨時列車・臨時列車の設定

①久慈秋まつり(9月19日(金)～9月21日(日))

団体専用臨時列車の運行(JR山田線・三陸鉄道リアス線・JR八戸線)

三陸鉄道(株)・久慈市と連携し、盛岡駅から観光列車「ひなび(陽旅)」に乗って、久慈秋まつりを満喫いただける旅行商品を発売します。ひなびは三陸鉄道宮古～久慈間が初運行になります。

■ツアー名 「～観光列車ひなびが三陸鉄道宮古～久慈間に
初乗り入れ！～ひなびで行く久慈秋まつりへの旅」

■運行日 9月21日(日)

■発売日時 6月2日(月)14:00

■運行時間・停車駅

駅名	盛岡	宮古	久慈	八戸
時刻	8:51 発	11:20 着	14:40 着	20:32 着
		11:30 発	19:00 発	



久慈秋まつり

※2025年5月28日現在の予定時刻です。時刻変更となる場合がございます。

■予約方法

以下のURLより詳細をご確認の上、お申し込みください。ネット販売限定となります。

<https://www.jrview-travel.com/reserve/travelItem/detail?genteiCd=2&courseNo=25H2546>

■実施 (株)JR東日本びゅうツーリズム&セールス

②花巻まつり(9月12日(金)～9月14日(日))

花巻市の伝統的な「花巻まつり」にあわせて便利な列車を設定します。

列車名:「ひなび 東北(花巻まつり号)」

運転日:9月12日(金)、13日(土)

駅名	盛岡	花巻	一ノ関
時刻	16:10 発	16:40 着	17:32 着
	21:19 着	20:46 発	19:58 発



花巻まつり

③日本のふるさと遠野まつり(9月20日(土)、9月21日(日))

遠野市で行われる「日本のふるさと遠野まつり」にあわせて便利な列車を設定します。

列車名:「ひなび 釜石(遠野まつり号)」

運転日:9月20日(土)

駅名	盛岡	遠野	釜石
時刻	10:40 発	12:09 着	13:24 着
	17:46 着	16:04 発	14:44 発

列車名:「日本のふるさと遠野まつり号」

運転日:9月20日(土)

駅名	遠野	盛岡
時刻	21:23 発	23:05 着



日本のふるさと遠野まつり

※詳細情報はプレスリリースをご覧ください。https://www.jreast.co.jp/press/2025/morioka/20250516_mr01.pdf

※10月以降の臨時列車については追ってお知らせいたします。

4 地域産品の磨き上げ



(1)「岩手の日本酒」PR

日本三大杜氏の南部杜氏発祥の地でもある岩手県の地域産品の磨き上げ・魅力発信の取り組みとして、南部美人や浜千鳥などの「岩手の日本酒」を国内外にPRします。



(2)産学連携による地域活性化の取り組みについて

地域とJR東日本グループのアセット・ソリューションを掛け合わせて共創することで、地域の課題を一緒になって解決し、新たな価値とサービスを生み出すことを目指して、「日本酒をテーマにした岩手元気プロジェクト」と題して、国立大学法人岩手大学及び岩手県青年醸友会と連携し、産学連携による「岩手の日本酒」をテーマにした地域活性化の取組みを始動します。

 日本酒をテーマにした
岩手元気プロジェクト



国立大学法人
岩手大学
IWATE UNIVERSITY

※期間中はJR東日本グループのアセットを活用した誘客促進や地域産品の販売・PRを予定しております。詳細は7月下旬頃お知らせ予定です。

5 東北復興ツーリズムの取組み



JR 東日本×三陸鉄道震災学習列車ツアー（JR 釜石線・三陸鉄道リアス線）

震災伝承施設の整備が進んだことを契機に、地域の皆様と連携して復興ツーリズムを推進しています。三陸鉄道「震災学習列車（釜石駅～宮古駅間）」で、震災の記憶と教訓を共有し、未来への備えを考える旅行商品を販売します。

■日 時 9月27日(土)、11月22日(土)

■実 施 (株)JR 東日本びゅうツーリズム&セールス

※ツアー詳細は7月下旬頃に「日本の旅、鉄道の旅」サイト(<https://www.jrview-travel.com/>)にて

公開となります。



三陸鉄道では、社員や沿線住民がガイドを務める「震災学習列車」を運行しています。この列車は、東日本大震災で被災した地域の状況を学ぶことを目的としており、震災当時の様子や現在の被災地の状況、現状の問題点について、パネルを使って詳しく説明します。運行中、被災状況が確認できる場所では列車を一旦停止または徐行運転し、乗客に対して震災当時の状況や現在の課題をリアルに伝えます。



陸中山田～織笠間

6 メインビジュアルポスター



期間中、重点的なプロモーションを実施する「日本酒」「みちのく潮風トレイル」のほか、秋を象徴する「美しい紅葉」を題材に、岩手県のPRキャラクター「そばっち」を登場させたポスターを掲出し、岩手の魅力をPRします。各撮影地はJR 東日本の各駅から徒歩でアクセス可能な場所となっています。



南部美人
(二戸市)



侍屋敷大松沢家
(金ヶ崎町)



みちのく潮風トレイル
(洋野町)

掲出期間:7月1日(火)～11月30日(日)

掲出場所:JR 東日本の主要駅、岩手県内の観光施設等

※7月の1カ月間は全国のJR 主要駅にて掲出します。

■ポスター撮影地と連動した「駅からハイキング」の設定について

駅からハイキング
&ウォーキングイベント

JR 東日本のアセットである駅を起点とし、ポスター撮影地を含む、地域の魅力を歩いて楽しめるコースを重点共創エリアのスタートに合わせて特別設定します。

コース名	最寄り駅
二戸駅発 - 南部美人と馬仙峡を巡る	東北新幹線 二戸駅
金ヶ崎駅発 - 侍屋敷と城下町を巡る	東北本線 金ヶ崎駅
陸中八木駅発 - みちのく潮風トレイルを歩く	八戸線 陸中八木駅

※その他のコースも多数設定を予定しています。詳細につきましては 7 月下旬頃お知らせ予定です。

7 キャッチコピー・ロゴマーク

・キャッチコピー

「秋は短し 旅せよ岩手」
WANDER IWATE

・ロゴマーク

秋は短し 岩手
旅せよ
WANDER IWATE

【選定理由】

2024 年度に実施した観光キャンペーンで若年層を中心に一定の認知を得たキャッチコピーであり、今年度も引き続き使用することでブランドメッセージの継続性を図るとともに、若者が抱く“切なさ”や“儚さ”といった秋の情緒をポジティブな魅力として捉え、岩手ならではの短くも濃密な秋の価値を伝え、このかけがえのない季節を逃さず旅してほしいという想いを込めています。

英表記「WANDER IWATE」は「岩手を巡る旅」や「岩手を自由に探索」といった、冒険心や旅の自由さ、岩手の自然や魅力を探索する楽しさを表現しています。

《参考》重点共創エリアとは

地域と JR 東日本グループが一体となって、観光資源や文化など地域の魅力について更なる磨き上げや発掘を行い、JR 東日本グループのアセットを有効活用しながら、国内のみならずインバウンドまでを視野に入れた情報発信を行うことで、持続可能な地域づくりを推進し交流人口や関係人口の拡大を目指していく取組みです。

※重点共創エリアに向けた取組みの詳細については、7 月下旬頃お知らせ予定です。